



と畜検査で発見される病気

豚編 No4 豚サルモネラ症



☆ どんな病気なの？

豚サルモネラ症は急性の敗血症（血液中に細菌が侵入して全身感染を起こしている状態）や慢性の下痢をともなう腸炎がみられる病気です。と畜検査では皮膚が赤紫になったり（血液中の酸素が減った状態でチアノーゼといいます）、肝臓に出血斑や、微小な白い壊死斑（チフス結節）を形成した状態で発見されることがあります。

☆ サルモネラ菌について

サルモネラ菌は人やその他の哺乳類、爬虫類や両性類の腸内に棲む腸内細菌の一種ですが、その中でも特定の種類のものが人や動物に病害を起こします。人のサルモネラによる病気も多く、サルモネラ食中毒や腸チフス、パラチフス等があります。

☆ 豚サルモネラ症

豚サルモネラ症は主にサルモネラ・コレラシスが原因となることが多いです。前述したように、この病気は肝臓に微小な白斑を形成しますが、同様に白斑を形成する寄生虫性肝炎（豚編 No1）や豚抗酸菌症（豚編 No3）との鑑別が必要になります。

☆ 豚サルモネラ症の病理組織所見

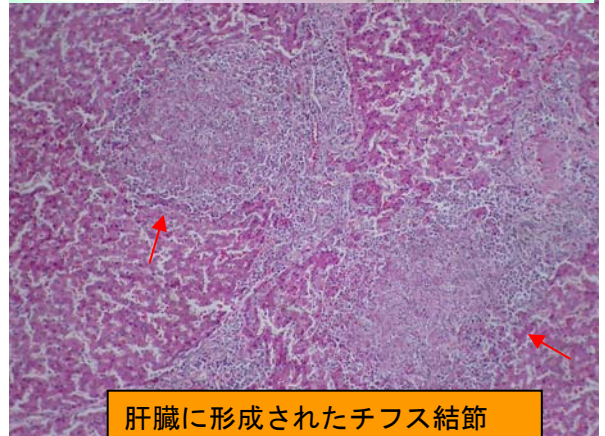
肝臓に認められる白い壊死斑はチフス結節と呼ばれ、巣状の壊死を起こしている状態です。チフス結節では肝小葉内にいくつかの壊死巣（→）が見られ、繊維素の析出、好中球の浸潤やマクロファージの出現が認められます。



皮膚のチアノーゼ



サルモネラ症の肝臓



肝臓に形成されたチフス結節

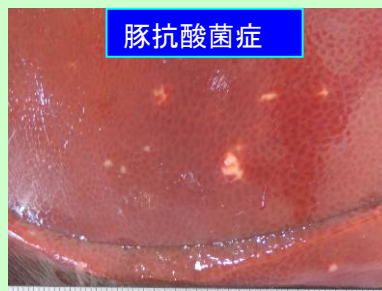
～病変を比較してみよう！！～

豚の肝臓に白斑ができる病気（寄生虫性肝炎、豚抗酸菌症、豚サルモネラ症）の肝臓病変を比較してみよう！！



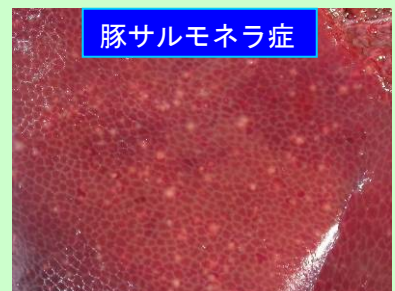
寄生虫性肝炎

大型で不整形、出血を伴うこともある白斑



豚抗酸菌症

充実性でもり上がっている、米粒大の結節



豚サルモネラ症

微小で、出血を伴うことが多い、針頭大の結節



違いが分かるかな？